

学校ビオトープの取り組みのポイント

学校ビオトープとは？

「^{ビオ}」は「生きもの」、^{トープ}は「場所」。「^{ビオトープ}」とは、地域の野生の生きものたちが生育・生息する空間を意味する言葉です。

学校の敷地などに設けるビオトープ「学校ビオトープ」は、私たちの生きる基盤である自然環境の、神秘さや大切さ、人と自然との共存などを体験的に学ぶ、環境教育の教材です。

地域の自然がお手本です。

学校ビオトープは、地域の生きものにとってくらしやすい環境でなくてはなりません。

学校の敷地などで、そうした環境を保全、創出する際には、地域本来の自然をお手本とし、植える植物や訪れてもらいたい動物を考えていくと良いでしょう。

いろいろなタイプがあります。

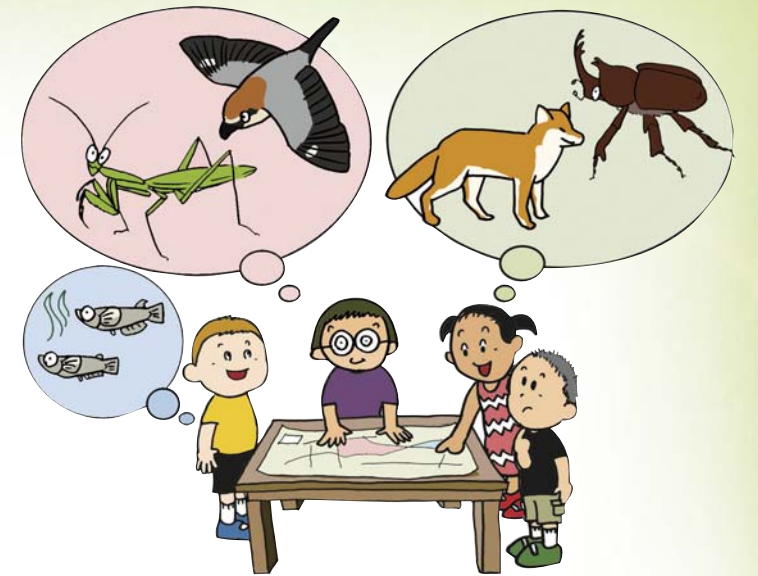
池をつくることだけが学校ビオトープではありません。訪れて欲しい生きものに合わせて、森林や草地、水辺など、いろいろなタイプのビオトープを考えてみましょう。

人のところをつなぎます。

保護者、地域住民、環境 NGO や行政機関、企業、団体など、地域の理解と協力が不可欠なため、地域のコミュニケーションを再生する効果も期待されています。

様々な能力の向上に活用できます。

学校ビオトープには様々な活用の仕方があります。国語、社会、算数、理科、美術、体育、音楽といったあらゆる教科や、総合的な学習の時間、特別活動の教材となり、情報の収集能力・処理能力、表現能力や合意形成の能力等を養う場になります。



様々な発達段階で活用できます。

学校ビオトープは、乳幼児から大人まで様々な発達段階で、自然体験や環境教育の場として活用できます。例えば乳幼児期においては、日常的に自然と触れ合うことで豊かな感性を育み、人間関係や表現を学ぶ場として注目されています。

地域のビオトープもつなぎます。

教材としてだけではなく、ビオトープネットワークの拠点としても機能します。人と自然とが共存する 21 世紀のまちづくりでは、欠かすことのできない重要な場所です。

これからのまちづくりを考える入口です。

持続可能な開発のための教育 (ESD) を進める場合、人と自然が共存するまちづくりを学ぶことが欠かせません。学校ビオトープは、その導入的な教材となります。学校ビオトープをきっかけに、地域の自然へ、地域のまちづくりへと、子どもたちの関心は広がります。

